

自己点検・評価について

①プログラムの自己点検・評価を行う体制

情報処理委員会自己点検・評価委員会

(責任者名)小川賀代

(役職名)情報処理委員会自己点検・評価委員会委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点		
プログラムの履修・修得状況		「基礎情報処理」は全学部必修科目であり、全学生が履修している。「AI入門」の2025年度履修者は全学で126名(2024年度132名)、「データサイエンス入門」は80名(2024年度79名)であり、2024年度はいずれも単位取得率が90%を超え、履修状況は良好である。また、新設の「プログラミング入門」は2025年度に全学で63名が履修し、前期の単位取得率も95%以上と順調に推移している。 本プログラムは2025年度より開始し、現在およそ23%の学生が履修を開始している。履修者増加に対応するため、「AI入門」「データサイエンス入門」は1クラスから2クラスに、「プログラミング入門」も2クラスで開講し、学生が円滑に履修できる環境を整備している。
学修成果		全学の情報科目では、毎期末に実施する「学生と授業改善について考えるアンケート」により、学生の理解度・達成度を把握している。2024年度の「AI入門」と「データサイエンス入門」の回収率は100%であり、「AI・データサイエンスを自分で役立てたいと思いますか?」との質問には、「とてもそう思う」が52%、「どちらかといえばそう思う」が39%で、計91%(2023年度93%)の学生が学修成果を今後に活かしたいと回答した。また、「AI・データサイエンスへの興味は変わりましたか?」の問いには、73%(2023年度74%)が「前より面白くなった」と回答している。これらの結果から、2025年度においても同様の学修効果が期待できる。
学生アンケート等を通じた学生の 内容の理解度		2024年度の学生アンケートでは、「AI入門」「データサイエンス入門」において、「AI・データサイエンスの概念について理解できましたか」という問いに対し、「とてもそう思う」が30%、「どちらかといえばそう思う」が65%で、計95%の学生が概ね理解できたと回答した。また、「授業の難易度はいかがでしたか」という質問では、2023年度の結果を踏まえた改善を行ったことで、2024年度は「難しかった」が6%(2023年度12%)、「どちらかといえば難しかった」が21%(同42%)となり、難易度が高いと感じる学生の割合を妥当な水準まで低減することができた。
学生アンケート等を通じた後輩等 他の学生への推奨度		全学科目である「AI入門」と「データサイエンス入門」では、実際に学んだ先輩たちが、高い満足度と学習意欲の向上をアンケートで示している。自由記述には、将来のキャリアを見据えた受講動機や、授業を通じて新たな分野への興味が広がったことなど、後輩にとって参考となる具体的な感想が多く寄せられている。 【AI入門】では、「生成AIの仕組みや正しい使い方を理解できた」「AIの可能性と限界を学び、活用には技術と経験が必要と感じた」といった声が挙がり、基礎的内容でありながら実践的な学びが得られたことが伺える。 【データサイエンス入門】では、「R言語による可視化が楽しかった」「易しい内容から専門的な内容まで幅広く学べた」といった感想が多く、授業をきっかけに自ら学習を継続したいと述べる学生も見られる。 これらの先輩の声は、学科HPやパンフレットで紹介し、後輩の受講を後押ししていく予定である。
全学的な履修者数、履修率向上 に向けた計画の達成・進捗状況		「基礎情報処理」は2021年度から全学必修科目として位置づけられ、全学的な履修率の向上をすでに実現している。その他の科目は全学共通科目として学科の自由選択科目に設定されており、2025年度に開始した本プログラムには現在およそ23%の学生が履修を開始している。 履修者数の増加に対応するため、今年度より「AI入門」「データサイエンス入門」を1クラスから2クラスに増設し、「プログラミング入門」についても2クラス体制で開講するなど、学生が円滑に履修できる環境整備を進めている。 今後も、新学期履修ガイダンスやホームページでの情報提供を強化し、継続的な周知を図ることで、全学的な履修率の一層の向上を目指す。

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点		
	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	業種別就職状況については、理系・文系を問わず、全学部から情報通信業界への就職が多く見られる。特に理学部では、2023年度は46%、2024年度は39%であり、業種別では最も多い。全学的に見ても、2024年度は16%で、サービス業界に次いで2番目に多い業界となっている。 職種別就職状況についても同様に、理系・文系を問わず情報通信関連職種への就職が多く、特に理学部では2023年度は61%、2024年度は44%で職種別では最多となっている。 これらの就職実績から、情報通信業界を中心に高い採用率を示しており、企業からは分析力・AI活用能力・データ利活用能力を有する即戦力として高く評価されていることが窺える。
	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	日本女子大学外部評価委員会規程に基づき設置されている外部評価委員会（産業界、自治体等の有識者で構成）から、データサイエンスの推進について提言をいただいた（2019年度）。この提言を踏まえ、社会で実践的なICT活用ができる人材育成を目指して、2021年度より全学共通の「AI・データサイエンス・ICT教育認定プログラム」を開設し、文部科学省より「リテラシーレベル」の認定をいただいた。それをさらに促進し、より深く実践的にAI、データサイエンス、ICTの活用する力を身に着けるため、2021年度より理学部において、「AI・データサイエンス・ICT教育認定プログラム（アドバンス）」を開始し、「応用基礎レベル」の認定をいただいた。2025年度より全学を対象とした「AI・データサイエンス・ICT教育認定プログラム（スタンダード）」を開始した。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること		Society5.0の社会像を具体的に理解できるよう、政府・研究機関・経済団体が提供するドラマ仕立ての動画を教材として活用し、自分たちの生活がどのように変化するかを実感できるよう工夫している。授業では、動画で意義を感じたサービスとその実現技術をレポートさせ、さらにAIやデータサイエンスを活用して実現したい技術・サービスを提案させることで、「学ぶ楽しさ」と「学ぶ意義」を自分事として捉えられるようにしている。また、自身の専門分野との関連も意識させ、社会課題の解決に数理・データサイエンス・AIがどう貢献するかを主体的に考える姿勢を育成している。学生アンケートでは、「AI・データサイエンス・ICTが社会に重要であると理解できた」と回答した学生が96%に達し、教育効果が確認できている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載		「学生と授業改善について考えるアンケート」を各期末に実施し、結果を踏まえて分かりやすい授業のための改善を続けている。データサイエンスに関する演習テキストは、アンケートから学生が難しいと感じたところを毎年修正している。「AI入門」「データサイエンス入門」の授業の難易度は、いかがでしたか？」に対し、2023年度の調査結果では、「難しかった 12%」「どちらかと言えば難しかった42%」であったが、2024年度は、「難しかった 6%」「どちらかと言えば難しかった 21%」と改善がみられた。